

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400212		
法人名	有限会社 ワコー		
事業所名	グループホーム郷の家		
所在地	静岡県島田市東光寺178番地の5		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 13 日	評価結果市町村受理日	令和3年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターのホームページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2275400212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、理念に「共感」「尊厳の保持」「自立性の尊重」を掲げ、住み慣れた地域で「その人らしい暮らし」を送ることができるようご本人の気持ちや状況を常に考えながら日々の生活支援に取り組んでいます。生活リハビリとなる料理・洗濯・掃除・買い物など、顔なじみの職員がさりげなく支援することで、今までできていたことが継続でき、ご利用者さんの達成感に繋がるお手伝いができるよう心掛けています。また、外出支援においては地域の方とのふれあう機会を大切にし、ご利用者さんが笑顔で楽しく過ごせることができるよう、毎月の担当職員が知恵を出し合い計画し実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「共感」「尊厳」「自立性」を3本柱とし、制限をかけないで自主性を重んじる介護をめざしている。職員から利用者への声かけは「私メッセージ」にし、利用者が気持ちよく何かを行ってもらえるようにし、満足感を得てもらっている。そのため職員で言葉かけの研修を行い、気を付けて取り組んでいる。コロナ禍で感染症に気を付け、庭での活動や車中ドライブは継続して、楽しみを創出している。利用者に刺し子の得意な方がいるので、近所の保育園の卒園児にプレゼントをしたり、スーパーマーケットで展示し希望者に譲り、感謝の手紙をもらっている。職員は長く勤務している人が多く意思疎通ができ常に情報共有をし、利用者の細かな変化にも気づき、早期に対応している。前回の外部評価の目標達成計画の防災については対策を立て、実現に向けて努力している。地域連携にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に事業所理念の「心がけ」を掲げ、ミーティングや勉強会の際に話し合っている	事業所に「理念」を掲示し、「心がけ」はミーティングで内容を確認し実践している。「虐待の芽チェックリスト」を2年前に作り、今年度も見直しを行い、理念の意識づけができていますか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流をし、繋がりが持つことで、地域の方の力になれるよう、地域の行事に参加(河川敷の草刈りなど)している	2年前に近所との交流の場として「ふれあい会」を始め20人ほど参加してもらい継続の予定だったがコロナで中止になった。今後継続する予定でいる。自治会長から「地域の年次計画」をもらい、草刈りに参加し、地域に事業所を周知してもらえるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、町内会長・民生委員・ご家族の方に参加していただいている。キャラバンメイト養成講座も受講し、講師として少しずつ認知症サポーターを広め、又、市と協力し認知症の理解と支援できる街づくりに貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、メンバーは行政(高齢者安心センター、長寿介護課)、民生委員、町内会長、入居者家族、職員で構成している。いろいろな意見を聞き議事録などで職員全員に周知しサービス向上に努めている	年度初めの2回は書面開催でその後は自治会長、民生委員、行政、高齢者安心センターの職員、家族の参加で開催している。入居者の生活の様子の映像は好評で、活発な意見交換ができています。議事録は職員に回覧し、家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での交流の他、防災や感染に関する相談や質問など、随時連絡をとるようにしている	行政職員は運営推進会議に毎回参加して、意見交換を行い、感染症対策の情報などは多数受け取っている。高齢者安心センターとは入居の相談やキャラバンメイトの講師の件等で連絡を取っている。介護相談員が年に2回訪問予定だったが今年は中止になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は深夜のみ。玄関と裏口にセンサーはあるが、入居者が出ないようにするためではなく、危険予防回避のための用途としており身体拘束の勉強会も随時行っている	指針は作成、改定している。委員会は所長と管理者、役員で構成され、2か月に1度開いている。職員は研修を年に2回行い、スピーチロックには特に気を付けている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において勉強会を行っている。又、定期的に職員一人一人に「虐待の芽チェックリスト」を使い、意識的に不適切なケアが行われないようミーティングの時にも話し合いを持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、職員はパンフレットの閲覧により、制度について理解する機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を決める前にできる限り利用者様やご家族様に見学に来ていただき、ホームの雰囲気などをみていただくことで不安の軽減に努めている。また、契約時にも十分な説明の時間を設け、疑問に答え、安心していただけるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族が来所した折には必ず近況を話し、その話の中でご希望などを把握し、運営に反映させている	家族には毎月の支払いで事業所に来所してもらい、その際に利用者の様子を話し、意見や要望を伺っている。電話でも頻りに連絡を取っている。写真を多数載せた「郷の家だより」は毎月送付している。家族から日常生活で笑顔が見られて嬉しいと好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、意見が出し合える環境作りをしている。ミーティングで出された意見や提案を取り入れて反映させている。	月に1回のミーティングでは入居者の対応についての意見が多く出され、対策を講じ共通認識で実践し改善している。年度末に面接表に基づき管理者は職員と面接を行っている。希望休を取りやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回ほど面談を行い、働きやすさについて話し合う機会を設けている。勤務表作成前に休暇希望を確認し反映している。職員個人のおける家庭環境も考慮し、勤務作成をしている。また、長期休暇にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は必要な研修を随時受講し、職員に反映している。 介護の統一を図れるよう、ミーティング時以外にも個人的に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流を行い、情報を収集したり、提供したりしている。 ケアマネットの会に出席し勉強している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、調査に伺い実情を把握し、ご本人との信頼関係を築くよう心掛けている。 また、ご家族やケアマネージャーから情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け、話しやすい雰囲気づくりをし、ご家族の不安を取り除いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがどのような場所であるかを伝え、理解していただき、ご本人の状態やご家族の心境などに配慮し、ご本人主体のサービスが提供できるように心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは入居者と職員が一緒に行動する関係である。常に居間を中心とした生活。家事や団らんを笑顔が絶えない状況を作り、一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊、面会など、いつでもできる環境としている。家族と顔をあわせたら必ず本人と一緒に話をし、現状を報告する。家族が本人と一緒におやつをとることもある。現在はコロナ禍のためリモート通話でご家族とお話できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍であるため、外出することが困難であるが、これまで大事にしてきた思いを共感したり、代弁できるよう心掛けている。ドライブでその場所に向向している。思い出話は常にしている。	緊急事態宣言中は面会を控えてもらったが、それ以外はZoomやLINE面会や窓越し面会を継続している。花好きな利用者の自宅に花の手入れに連れて行っている。コロナ前は家族と外出や外食を楽しんでいた。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーに座り、庭を見ながら外気浴や日光浴をし、開放的な気持ちになり、仲間意識が保てるように会話を楽しめるよう仲立ちをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所した方には退去後連絡をとり相談に応じている。 死亡退所者については葬儀に出席し、その後も適時連絡をとることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方には、表情や日々の行動から思いや意向を把握できないことがあり、ジェスチャーやご家族の協力を得ながら、少しでもご本人の思いやご希望など把握できるように努めている。	職員全員で全利用者をケアし、気づいたことは申し送りノートや個別ノートに記入し情報共有している。特記事項は困いをし、職員は閲覧後、サインをしている。意思表示が困難な利用者は表情を見て、声かけを密にし、話を聞いて何を欲しているか理解するようにしている。	職員は利用者の希望や意向を理解するように努めているが、外部研修等に積極的に参加し、アプローチの仕方の視点を変え、新たな気づきができるようなスキルを身につけるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得たご家族、ご本人、ケアマネジャーなどからの情報を基に入居者を理解している。又、日常生活の会話の中でも情報として得たことは職員間で共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での変化を細かくチェックし、把握している。 記録ノートから全職員が把握できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画以外は、その時々や日々の課題はケア内容が決まり次第、申し送りノートを利用し細かな計画を立て職員が周知できるようにしている。	モニタリングは介護計画に基づき、評価しやすいように職員が気づきを個別ノートに記入をしている。毎月行っているミーティングで必要時にカンファレンスを行っている。家族や本人、医師の意見を聞いて、ケアマネジャーが作成している。遠方の家族には作成前に原案を見てもらい意見を聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ノートを個々に記録し、職員間の情報共有と次の介護に活かせるようにしている。変化があれば随時介護ケアの内容を変更している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症共同生活介護に特化していて、デイサービスやショートステイは現在も考えていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、毎日近所のスーパーに買物に出ることができていない。安全安心な毎日を送ることができるよう感染に十分注意している。毎年恒例の保育園との交流を図れる運動会や卒園式には参加できない状況である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診の協力が得られている。電話での相談も出来る。異常があれば家族と相談し、適宜受診ができています	利用者全員が協力医の往診を受け、体調が変化した時には電話で相談ができる体制づくりがある。他科は家族対応だが、皮膚科は職員が対応する機会が多い。管理者が看護師なので日常の健康管理や体調変化に対応する。歯科は市の訪問歯科医を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理職が看護師であり、常に目が行き届いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった場合は、入院中は安心して治療できるよう相談に乗り、又、早期に退院できるようになるべく病院に足を運び情報交換し、ホームでの対応ができるようにしている。家族や医師とも相談しながら早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師との連携がよくできているので、家族を含めた話し合いが十分でき、状態の変化に伴う説明や支援が適切に行える。	入居時に重度化した時、終末期のあり方について説明し利用者・家族の同意書を得ている。重度化した際には、医師が家族、管理者に説明をし、再度家族の意向を確認し支援の方法を決めている。職員は看取りの経験はあるが年に1回、研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、二度と同じような事故を起こさないように話し合う機会を設けている。また、急変に備え、急変時の対応の勉強会を随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	認知症により、避難をするのは困難であることから、ホームでの待機が基本となってくる。ホームで身の安全の確保ができるよう訓練を行っている。 近隣・地域との協体制が整うよう、運営推進会議などで話し合っている	前回の外部評価で指摘された備蓄リストの作成、地域連携、災害の様々な想定を検討を進めたが、水害や停電を経験し新たな課題が出てきた。備蓄の1日分はすぐに取り出せるよう、発電機のレンタルもできるよう改善した。	発電機の確保の目途が立ったので、実際に発電機を使用する訓練を行い、課題を検討してください。地域連携は強化しているのでコロナ後にさらに進められるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性を大事にし個々に合わせた言葉かけをしている。尊厳を保持するため、常に快の感情で終わらせるように心掛けている。言葉かけは「私メッセージ」を使い、自主性の尊重をしている。	利用者によって、反応する言葉があり、職員は個人ノートで情報を共有し個別対応をしている。ジェスチャーと笑顔で対応するようにし、できるだけ否定的な言葉を使わず、私メッセージを使うように気を付けている。不足している場合は職員会議で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望む生活、尊厳のある生活を送ることができるよう職員は常に対応に気を付け、話しやすい環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間は決めているが、入居者様によっては、眠気が強く、遅めの朝食になることもある。ご本人の状態や状況に応じて生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が持参してくれた物を(出来る方については)本人と共に選んでいる。 厚着になる人には適切に声掛けて調節する。ヘアカットや毛染めは職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、調理、準備、片付けなど入居者の能力に応じて行っている。 居間と台所が続いている為、調理の段階から楽しめる。	コロナ前は食材の買い物に利用者と職員で出かけていたが現在は職員のみで行っている。調理や配膳、片付け等は利用者が積極的に関わってくれる。外食やテイクアウトよりも自分達で作って食べることを大切にし、職員も同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や食欲に応じて量を決めている。食事量をチェックして、水分が摂れにくい人には水分チェックをし、その方に合った水分により、水分補給につとめている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の人の状態や、能力に合わせて支援している。コップ、歯ブラシなどの清潔にも注意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況をチェックし、適切なトイレ誘導を行っている。個々に合った適切なパット類を使用する。食事量と水分補給に努めている。	利用者の多くは日中トイレに行く意思表示ができるので、見守りながら支援している。夜間はポータブルトイレを利用する利用者もいる。水分摂取量は病状に注意して取ってもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になり得る原因を職員は理解し、個々に応じた対策をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日や時間は決めていない。本人の希望や状況で入浴している。介助を要する利用者様については、身体の状態に合わせて入浴を行っている	毎日入浴、一日おきに入浴する方など利用者の好みを理解して、入浴してもらえるように支援している。気分を変えるため入浴剤を使用したり、職員と一緒に歌を歌いながら足浴をしている姿が確認できた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要がある方については昼寝を取り入れている。寝返りが出来ない方については低反発マットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストにて理解できるようにしている。服薬については工夫をこらしている。(スプーン、ゼリー飲料、トロミ材の使用など。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行うことで役割を持った生活を保てており、張り合いの持てる毎日を送ることができている。また、編み物、刺し子、縫い物など今までの生活で行ってきた生活歴などを参考に好きなことを継続できるよう支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭に出て草取りや花壇の手入れを自主的にできるようにしている。近隣の家まで行き、お話をしたり、農産物をいただいて帰ってくることもある。又、ドライブがてら、気分転換を兼ねて、自分の家の庭の手入れをしに行ったり、ご近所の方とお話ししたりする機会を設けている。	コロナ前は食材等を買いに職員と買い物に出かけていた。また、家族と外出や外食にでかけていた。現在は、近くを散歩したり、庭に出て草取りをしたり日光浴をしている。ドライブがてら以前住んでいた自宅の庭の手入れに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を手元に持っている者はいない。欲しいものを買った時は後程家族より支払ってもらおう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状況により電話が出来るようにしている。又、必要な人には家族からかけてもらうようにしている。コロナ禍もあり、感染予防のため、lineやzoomなどのビデオ通話を利用し、顔をみてお話ができるよう配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を毎日行っている。明るくシンプルで清潔な空間作りに心がけている。額や飾り物は季節に合わせている。花も季節に応じて植え替えている。外出支援の一環として、毎月担当の行事担当職員が季節感を取り入れた行事を計画し、実行している。	居間は陽当たりが良く、ソファが置かれていて、利用者は食卓の椅子に座ったり好きな所でテレビを見たり、洗濯物をたたんだりとくつろいでいた。ウッドデッキに続く庭が眺められる広縁にもソファが置かれていて刺し子をしたリトイレへ行く途中の休憩場所になっている。所々に季節の花や飾り物が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間のソファで、それぞれの場所でくつろげる工夫をしている。気の合う者同士でお喋りできる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日部屋の整理整頓をしている。部屋への持ち込みは自由であり、家族の希望に沿っている。入居者様により、必要時、動線に沿った使い勝手にできるよう、部屋の模様替えをしている	居室の入り口には花を描いたツールペイントの表札に利用者の名前が書かれている。部屋は整理されていて、馴染みのタンスや孫やひ孫の写真が飾られている。部屋の雰囲気に合わせてカーテンやレースカーテンの色となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、食堂がホームの中心部にあり、一目で全体がわかる。バリアフリーである。トイレも判りやすい位置にある。余分な物を置かず、整理整頓を心がけている。入居者様一人ひとりの安全を考えた動線を考慮している		